

# お彼岸

お彼岸では、“お墓参り”にいかれる方を多くみかけますよね。

お彼岸にお墓参りすることは、“ご先祖様をうやまい、亡くなった人を偲ぶ”と理解されていると思います。改めて「お彼岸」について以下まとめましたのでご覧ください。

## 【お彼岸とは、／お彼岸はいつ？】

お彼岸は、「春分の日」と「秋分の日」を中日として、前後3日間をあわせた7日間をさします。

仏教には「此岸」と「彼岸」ということばがあり、「此岸」は東に位置し、私たちの世界（煩惱と迷いの世界）をあらわし、「彼岸」は西に位置し、ご先祖様や亡くなった人がいる世界（悟りの世界）をあらわしています。

春分の日と秋分の日、太陽が真東から昇り、真西に沈むことから、あの世（彼岸）とこの世（此岸）が一番近づき通じやすい日などといわれており、この時期にご先祖様や亡き人に供養をするようになりました。

仏教では、仏教修行を行い此岸から彼岸へ渡る意としています。

## 【六波羅蜜の実践】

前述の悟りの世界へ渡るために行う仏教修行を「六波羅蜜」といい、波羅蜜は古いインドの言葉（サンスクリット語）で“パーラミータ”が中国で音写され“波羅蜜”となり、これを訳すと“到彼岸”（彼岸へ渡る）という意味になります。

仏さまが示された六波羅蜜という6つの実践とは、

六 波 羅 蜜	一、 布施 命を育み施しをする 財施（物を施す） 法施（真理を教える） 無畏施（恐怖を払い安心を与える）
	一、 持戒 身を清めて教えを守る
	一、 忍辱 厳しさ（困難や災厄などに挫けず）に堪え忍ぶ
	一、 精進 弛まず努力を続け励む
	一、 禪定 心を落ち着かせる
	一、 智慧 仏さまの教えを学び、正しい心・考えをもつ

お彼岸に、菩提寺へ足をはこびご本尊様に手を合わせ、ご先祖様や亡き人に生花やお線香、お水を供えて手を合わせ供養することが六波羅蜜の実践になります。

今、ここに“自分”がいるのは、ご先祖様から繋がられてきた生命です。“ご先祖様のおかげ”という感謝の心を忘れることなく一生懸命生きましょう。